

eitoeiko より展覧会のお知らせです

在日・現在・美術 II

鄭梨愛、鄭裕憬、李晶玉

2016年7月22日～8月13日

eitoeikoでは7月22日(金)より8月13日(土)まで、鄭梨愛(チョン・リエ Chong Ri Ae)、鄭裕憬(チョン・ユギョン Jong YuGyong)、李晶玉(リ・ジョンオク Lee JongOk)の三名による展覧会「在日・現在・美術 II」を開催いたします。1991年、三人はそれぞれ兵庫、神奈川、東京で生まれ、朝鮮大学校教育学部美術科卒業後、鄭梨愛と李晶玉は研究室に在籍し、現在は三名とも東京で制作しています。



李晶玉 オフィーリア 92x182cm 2014

作家たちの共通点である「在日」という言葉は、その後ろにつくはずの「朝鮮人」が省略され、「日本人」の中に数多くの不穏な憶測を生むことは免れません。政治や社会の問題に根差している部分もあれば、言語や習慣など文化の問題から生じるものもあります。そして90年代に日本で生まれた三人には、両方の文化が混在しています。

他民族交流や多国間交流は人種を超えた共感を喚起する一方で、憎しみや争いを生むものですが、彼らは自らの過去と現在にそれらを内包した日々を生きているのです。しかし表現者であることを選んだ彼らは、環境や社会、歴史から受けた様々な知識や体験を、新たな視覚的イメージとして表すことを可能にしています。母校と隣りあう武蔵野美術大学の学生とも積極的に交流し、自分たちとは何かを共に思考してきました。

「在日」であることから生じる社会的あるいは文化的な摩擦を意識しつつ、彼らは芸術と向き合います。

ところで、どんな要件にも適合する、汎用的な美術というものが存在するでしょうか。すべての人間にひとしく受け入れられる芸術こそ、芸術なのでしょう。すべての人間にひとしく受け入れられる人間が存在しないように、美術もそのとらえ方によって様々な解釈が生まれます。その多様性に関心を向け、作品の核心を考えることが、新しい視野をひろげる装置となるのではないのでしょうか。

本展では三作家による絵画作品約十点に加え、映像や新しい試みのミックストメディア作品などを展示いたします。皆様のご高覧をお待ちしております。

三名が企画・参加した主な展覧会

2013 「在日」は必要だった。(朝鮮大学校美術科)

2013 この場所にいるということ(武蔵野美術大学)

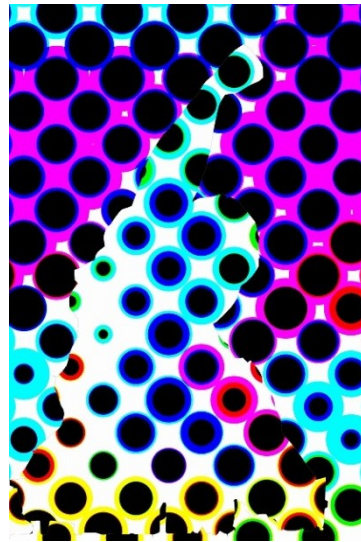
2014 在日・現在・美術(eitoeiko)

2014 孤独なアトリエ(武蔵野美術大学、朝鮮大学校美術科)

2015 突然、目の前がひらけて(武蔵野美術大学、朝鮮大学校美術科)



鄭梨愛 無題 65.2x53cm 2016



鄭裕憬 Try to thoroughly penetration militant tasks!
143x109cm 2016



上) 鄭梨愛 ある所のある時におけるある一人の話と
語り聞かせ。ビデオ 20分 2015
右) 李晶玉 旗 183x124cm 2015



在日・現在・美術 II

鄭梨愛、鄭裕憬、李晶玉

2016年7月22日(金)～8月13日(土)

開廊 12時から19時 日月祝休廊

オープニングパーティー 7月22日(金)19時～21時

eitoeiko

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 32-2

03-6873-3830

<http://eitoeiko.com>

ei@eitoeiko.com